

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	高山市立 いきいき広場		
○保護者評価実施期間	2026年1月26日		～ 2026年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35 (回答者数)	27
○従業者評価実施期間	2026年1月20日		～ 2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月2日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<b>環境</b> ・療育室は広く、天井が高いため、十分に体を動かして遊べるスペースがある。 ・他事業所と協力し様々な遊具を入れ替えて使用することで、様々な運動遊びをすることができる。	・危険がないよう、活動に合わせて遊具の配置や安全マットの配置をしている。 ・落ち着いた活動ができるスペースには机を使用する等、思い切り体を動かすスペースとの変化をつけることによって集中しやすい環境づくりを意識している。	・身体を動かす遊びは、発達支援のなかでも重要であるため、継続的にダイナミックな活動ができるよう、遊具の使用や配置を工夫する。
2	<b>適切な支援の提供</b> ・支援前、支援後に個別支援計画に基づき、支援内容や役割分担について話し合いをしている。 ・職員同士でこどもの姿や成長について共有し、次の支援へと繋げている。	・職員間で利用児のアセスメントや教室全体の課題等を共有している。 ・他教室の職員による見学や意見交換を通じて、客観的な意見を取り込み、新たな支援方法を工夫している。	・職員間での話し合いの時間を確保する。 ・どうしてこの活動をするのか、手立ては正しいか、何を目指して行うか等、職員間の確認体制を強化する。 ・こどもの発達支援に関する研修会の参加により、職員の支援力の向上を図る。
3	<b>関係機関との連携</b> ・連携して支援を行える体制が整っている。	・隣接の保育園との情報共有や、園での姿を日常的に観察することで共通認識ができている。 ・リハビリでの様子をカンファレンスで聞くなど、専門的な意見を聞いたり、情報共有を行っている。	・関係機関との共通認識を深めることで、利用児のさらなる支援に繋げる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<b>適切な支援の提供</b> ・言語や作業、医療などの分野横断的な対象児のアセスメントや評価が難しい。	・アセスメントや評価が、担当職員の主観によるものが大きい。	・必要時に発達検査の実施や多職種による分析や評価の場をもち、偏りのない分析評価とする。
2	<b>保護者への支援</b> ・保護者同士の交流の場が少ない。	・保護者会が存在していない。 ・保護者同士の交流の場について保護者の開催希望が分からない。 ・隣接園在園中の療育で保護者同士会う機会が少ない。	・今後、必要に応じて親子療育等の保護者支援の開催について検討していく。 ・事業所保護者評価で、保護者同士の交流のニーズを把握する。